

平成 22 年度 博士学位論文要旨

学位論文題名 (注: 学位論文題名が欧文の場合は和訳をつけること)

回復期脳卒中片麻痺患者における入院時重症度別の FIM 運動細項目の経過解析

学位の種類: 博士 (理学療法学)

首都大学東京大学院 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 理学療法科学域

氏名: 永井 将太

(指導教員名: 新田 収)

注: 1,000 字程度 (欧文の場合 300 ワード程度) で、本様式 1 枚 (A 4 版) に収めること

目的:

回復期脳卒中片麻痺患者に有用な日常生活活動 (以下, ADL) 訓練用クリニカルパスを作成することは、今後増加する脳卒中患者に対するリハビリテーションの効率を高めるためにも非常に有益である。そこで本研究は、回復期脳卒中片麻痺患者に対し、入院時の FIM 得点を用いて層別化した上で、FIM 運動細項目得点の経時的な変化を解析し、これによりバリエーションの多い脳卒中患者に対する ADL 訓練用クリニカルパスとして利用可能かを検討することを目的とした。

対象:

回復期リハビリテーション病棟に入院した脳卒中患者 1479 名を対象者とした。

方法:

入院時の FIM 運動項目合計点から対象者を 9 層に層別化し (以下, 入院時 ADL 重症度)、各層ごとに各 FIM 運動細項目得点が 6 点以上の自立に到達している患者の割合 (以下, 自立到達度) と、自立に到達するのに必要な期間 (以下, 自立到達期間) を解析した。

結果:

入院時 ADL 重症度別に見ていくと、10 点台、20 点台では対象者の 50% 以上が自立に至った項目は見られなかった。30 点台～50 点台では、整容や更衣上、トイレ動作などに、60 点台、70 点台では、清拭、歩行、階段などに、80 点台では浴槽移乗に、50% 以上の患者が自立にいたった。また、自立到達期間を見ると入院時 ADL 重症度別 10 点台～50 点台では、自立到達にかかる期間が項目ごとに 2～10 週間程度とばらつくのに対し、入院時 FIM 運動項目合計点 60 点台以降では、ほとんどの項目が 2～4 週間で到達可能であった。

結語:

以上のように入院時の ADL 障害の程度により特徴的な自立到達度と自立到達期間を示しており、これらの組み合わせを知ることによって回復期リハビリ病棟へ入院する脳卒中片麻痺患者の ADL 訓練の指標となることが示唆された。